

## 静御前と源義経の悲恋物語－感動の名作を遂に再演!!

文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援)） | 独立行政法人日本芸術文化振興会

日本オペラ協会公演 日本オペラシリーズ No.87

総監督 郡 愛子

なかにし礼 作・台本 / 三木 稔 作曲

# 「静と義経」

Shizuka & Yoshitsune

オペラ全3幕 〈字幕付き日本語上演〉ニュープロダクション

よしの山 みねの白雪 ふみわけて 入りにし人の 跡ぞ恋しき



2019年 創立60周年記念公演より

2025年3月8日(土)・9日(日) 14:00 開演

東京文化会館 大ホール

【開場 13:00】 \* 13:15 から会場内にて作品解説をいたします。 ※上演時間：約3時間（休憩含む）

- 主催：公益財団法人日本オペラ振興会、公益社団法人日本演奏連盟
- 都民芸術フェスティバル主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団
- 助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援)） | 独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人三菱 UFJ 信託芸術文化財団

## ～あのグランドオペラ「静と義経」待望の再演～

オペラ「静と義経」は、1993年鎌倉芸術館の開館記念委嘱作品として三木稔作曲にて製作されました。同年、台本作者であるなかにし礼本人の演出により初演され、絢爛豪華なステージとして大成功を収めました。武士が権力を握った時代を象徴する歴史上の数々の登場人物に加え、様式美も感じさせるドラマティックな音楽により、壮美なグランドオペラとして仕上げられたこの作品は、ジャパントイムズをはじめとして各種音楽評でも絶賛されました。

2018年に日本オペラ協会は創立60周年を迎え、その記念公演として2019年3月に新宿文化センターで東京初演を行い、両日満員のおお客様にご来場いただきました。監修に、本作の台本を書き下ろした作詞家なかにし礼を迎え、「作品の本質に迫る公演」としてメディアにも多数取り上げられ、大盛況のうちに終演いたしました。

あれから6年、今回新たなプロダクションとして生まれ変わります。指揮は前回に引き続き、日本オペラの指揮者として絶大の信頼を得ている田中祐子、演出には、東京藝術大学大学院を修了し、現在日本を代表する”文芸座”の演出を務める生田みゆきが日本オペラ初登場。出演者には、砂川涼子、相楽和子、澤崎一了、海道弘昭、須藤慎吾、村松恒矢をはじめ、日本オペラ協会が誇る数多くの歌い手を配しました。

吉野山から始まる悲劇。義経への想いを貫き通す静の、悲しくも華々しいグランドオペラにどうぞご期待ください！

## あらすじ

1185年11月、義経主従は雪降る冬の吉野山を越えようとしていた。義経は静御前に都へ戻るよう頼むが、彼女は泣いて拒否する。静は義経の子を身籠っており、義経は静に財宝と初音の鼓を形見として渡し、山を下りよう説得する。静は泣きながらも山を下りる決心をするが、二人の案内人に財宝を奪われ、暴行される。静は再会を信じて山を下り始める。

1186年4月、鶴ヶ丘八幡宮で静御前が舞を奉納する。頼朝は静が義経を想う歌を歌ったことで怒り、静の胎内の子供が男児なら殺すと決定する。静の母、磯の禪師は悲しい祈りを捧げる。

1186年7月、静は男児を出産し、子供は頼朝の命令で殺される。静は死にゆく我が子のために子守唄を歌い、義経が衣川で死ぬ場面が重なる。静は都に帰らないと決意し、四重唱が哀切を極める。1189年6月、義経の首が鎌倉に届けられ、頼朝とその仲間たちが議論する。頼朝は涙を見せるが、その涙の意味は不明瞭である。静と磯の禪師が現れ、静は母に都へ帰るよう促されるが、自ら命を絶つ。雪が舞い落ち、物語は終わりを迎える。

## 出演者

指揮／田中祐子      演出／生田みゆき

	3/8	3/9
静	砂川 涼子	相楽 和子
義経	澤崎 一了	海道 弘昭
頼朝	須藤 慎吾	村松 恒矢
弁慶	江原 啓之	杉尾 真吾
磯の禪師	鳥木 弥生	城守 香
政子	川越 塔子	家田 紀子
大姫	芝野 遥香	別府 美沙子
梶原景時	持木 弘	角田 和弘
和田義盛	川久保 博史	勝又 康介
大江広元	三浦 克次	中村 靖
佐藤忠信	和下田 大典	竹内 利樹
伊勢三郎	琉子 健太郎	濱田 翔
片岡経春	山田 大智	龍 進一郎
安達清経	黄木 透	平尾 啓
堀ノ藤次	別府 真也	江原 実
藤次の妻	きのした ひろこ	吉田 郁恵

## スタッフ

合唱指揮：諸遊 耕史      美術：鈴木 俊朗      衣裳：坂井田 操      照明：矢口 雅敏  
 振付・所作：出雲 蓉      舞台監督：八木清市      副指揮：平野桂子、小松拓人      演出助手：伊奈山明子

## プロフィール



## 指揮：田中祐子／Yuko TANAKA

平成 30 年度（第 29 回）五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。受賞に伴い 2019 年渡仏。2020 年度ローム ミュージック ファンデーション奨学生。パリにて更なる研鑽と演奏活動を継続する。東京藝術大学大学院指揮科修士課程首席修了。2012 年より渡独し主にベルリンとミュンヘンにて研鑽を積む。東京国際コンクール「指揮」入選、ブザンソン国際指揮者コンクール、ショルティ国際指揮者コンクールのセミファイナリスト。2013 年クロアチア国立歌劇場リエカ管弦楽団に招かれ海外デビュー。これまでに、全国各地のオーケストラと共演を重ねる。日生劇場、東京室内歌劇場、日本オペラ振興会等都内のオペラ団体にて副指揮、プロンプターとしてオペラ研鑽を積み、2015 年藤原歌劇団公演「ラ・トラヴィアータ」でオペラデビュー、2017 年日本オペラ協会公演「よさこい節」（於：新国立劇場）、2018 年名古屋二期会公演「ちゃんちぎ」、2019 年日本オペラ協会公演創立 60 周年記念公演「静と義経」、23 年藤原歌劇団公演「二人のフォスカリ」、24 年日本オペラ協会公演「ニングル」に登壇するなど、オペラ指揮者としても着実に実績を挙げている。2015-16-17 年シーズン NHK 交響楽団首席指揮者 P.ヤルヴィ公式アシスタント。その間、同団において C.デュトワ、C.エッセンバッハ、M.ヤノフスキをはじめ数々の公演のアシスタントおよび合唱指揮を担当。チョン・ミョンフン指揮東京フィル公演の合唱指揮も担当した。2018 年～2020 年オーケストラ・アンサンブル金沢指揮者。NHK-E テレ「らららクラシック」や NHK-FM「名曲アルバム」、日テレ「読響シンフォニックライブ」、テレ朝「題名のない音楽会」等、メディア出演多数。



## 演出：生田みゆき／Miyuki IKUTA

東京藝術大学大学院 音楽研究科修士課程修了。2011 年 文学座附属演劇研究所入所（51 期）後、2016 年 座員に昇格。2010～2014 年「ペーター・コンヴィチュニー オペラ演出ワークショップ」（滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール主催）に参加。2016 年 ドイツ文化センターの文化プログラムの語学奨学金（芸術分野対象）を得て、ドイツに滞在。2024 年 第 31 回読売演劇大賞優秀演出家賞『占領の囚人たち』『海戦 2023』『屠殺人ブッチャー』令和 5 年度（第 74 回）芸術選奨新人賞『占領の囚人たち』ほかの成果に対してを受賞。2017 年アトリエの会『鳩に水をやる』で文学座を初演出。その後、文学座では 2018 年『最後の炎』、2020 年『ガールズ・イン・クライシス』を演出。

直近では、2022 年『建築家とアッシリア皇帝』（主催：世田谷パブリックシアター）、2023 年パレスチナ演劇上演シリーズ『占領の囚人たち』（主催：名取事務所）と文学座外での活躍も著しい。



**静：砂川涼子（ソプラノ）／Shizuka：Ryoko SUNAKAWA（Soprano）**

武蔵野音楽大学卒業、同大学大学院修了。2001年より第10回（財）江副育英会オペラ奨学生として、05年より五島記念文化財団の奨学生として渡伊。第34回日伊声楽コンクール優勝。第69回日本音楽コンクール第1位。第12回リッカルド・ザンドナイ国際声楽コンクールでザンドナイ賞受賞。2000年新国立劇場小劇場オペラ「オルフェオとエウリディーチェ」で本格的デビュー。イタリアで研鑽を積みながら、01年藤原歌劇団に「イル・カンピエッロ」のガスパリーナでデビュー。新国立劇場「トゥーランドット」リユー、「ドン・ジョヴァンニ」ゼルリーナ、「ドン・カルロ」天よりの声と出演を重ね、同劇場「カルメン」「魔笛」「ホフマン物語」「夜叉ケ池」「ウェルテル」「ジャンニ・スキッキ」等、容姿・実力を兼ね備えた歌唱は常に高い評価を得ている。藤原歌劇団には、「ランスへの旅」コリンナ、「ラ・ボエーム」ミミ、「フィガロの結婚」伯爵夫人、「道化師」ネッダ、「ラ・トラヴィアータ」ヴィオレッタ、「ファウスト」マルグリート等に出演し、常に絶賛されている。日本オペラ協会には、「キジムナー時を翔ける」カルカリナで初登場している。23年「源氏物語」六条御息所、「夕鶴」つうで出演。オペラ夏の祭典2019-20 Japan⇔Tokyo⇔World、20年グランドオペラ共同制作において「トゥーランドット」のリユーで出演し好評を得た。その他、FM名曲リサイタル、NHKニューイヤーオペラコンサートなど、各種演奏会で活躍を続けている。CD「ベルカント」「悲しくなったときは」好評発売中。第16回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。

日本オペラ協会会員。藤原歌劇団団員。武蔵野音楽大学非常勤講師。沖縄県出身。



**静：相樂和子（ソプラノ）／Shizuka：Kazuko SAGARA（Soprano）**

国立音楽大学卒業、同大学大学院修了。卒業時に武岡賞、修了時に最優秀賞を受賞。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第37期生修了。育成部入所時に、立石信雄研究生奨学金を授与される。19年度第4回日本オペラ振興会立石信雄海外研修奨学生、20年度さわみオペラ芸術振興財団として、19年よりイタリア・ミラノに留学。オージモ市立オペラアカデミーで研鑽を積む。第29回奏楽堂日本歌曲コンクール歌唱部門第3位。下原千恵子、B.フリットリの各氏に師事。16年国立音楽大学大学院オペラ公演「ドン・ジョヴァンニ」のドンナ・アンナでデビュー。18年オペラ歌手育成部修了公演「フィガロの結婚」の伯爵夫人で高い評価を得た。

日本オペラ協会には、20年「紅天女」タイトルロールのアンダースタディーを経て、21年「魅惑の美女はデスゴッデス！（死神）」のタイトルロール、22年「咲く～もう一度、生まれ変わるために～」桜、24年「ニングル」のミクリに出演し、いずれも高い評価を得ている。

留学中、イタリアにて多数コンサートに出演の他、日本国内でも、日本オペラ協会主催コンサート、22年文化庁アートキャラバン事業「家族で楽しむ～神奈川フィル夏休みコンサート」に出演するなど、今後の活躍が注目されている新進ソプラノ。

日本オペラ協会会員。藤原歌劇団団員。福島県出身。





**義経：澤崎一了（テノール）／Yoshitsune: Kazuaki SAWASAKI (Tenor)**

国立音楽大学卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第27期生修了。第30回ソレイユ音楽コンクールにて第2位及び優秀賞受賞。第53回日伊声楽コンクール第2位及び五十嵐喜芳賞受賞。第2回V.テッラノーヴァ国際声楽コンクール第1位。

藤原歌劇団には、2016年「トスカ」のスポレッタでデビュー以降、18年「道化師」ペッペ、19年「ラ・トラヴィアータ」アルフレード、20年「カルメン」ドン・ホセ、21年「蝶々夫人」ピンカートン、「清教徒」アルトゥーロ、23年「トスカ」カヴァラドッシ、24年「ファウスト」タイトルロールで、いずれも

高い評価を得ている。その他、これまでに「リゴレット」マントヴァ公爵、「ラ・トラヴィアータ」アルフレード、「連隊の娘」トニオ、「愛の妙薬」ネモリーノ、「カヴァレリア・ルスティカーナ」トゥリッドゥ、「コジ・ファン・トゥッテ」フェランド、「秘密の結婚」パオリーノ、「こうもり」アイゼンシュタイン及びアルフレード、「夕鶴」与ひょう等、様々なオペラに出演。15年ビントでのトラエッタ・オペラフェスティバル「蝶々夫人」の同役にてイタリアデビュー。平成27年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業「ラ・ボエーム」に抜擢され、ロドルフォを好演した。その他、ヴェルディ及びモーツァルトの「レクイエム」や「第九」「メサイア」、天皇陛下御即位二十年奉祝曲「太陽の光」を歌うなど、多岐に渡り活躍している注目のテノール。

藤原歌劇団団員。立教池袋中学・高等学校講師。神奈川県出身。



**義経：海道弘昭（テノール）／Yoshitsune: Hiroaki KAIDO (Tenor)**

国立音楽大学卒業。2012年NPO事業によりイタリアへ2年間留学。どみそグループ専属歌手、NPO事業演奏研究員。2015年、サントリーホール等にて動員総数4,000名のデビューリサイタルを成功。TV番組「みんなの音楽会TV」にレギュラー出演し、L.ヌッチら世界的歌手との対談や共演が話題を呼んだ。第46回イタリア声楽コンクール・シエナ大賞受賞。第1回V.テッラノーヴァ国際声楽コンクール優勝。日本オペラ協会では、2020年「紅天女」仏師・一真で大成功を収め、以降21年「キジムナー時を翔ける」マサキ、22年「ミスター・シンデレラ」伊集院正男、23年「源氏物語」頭中将、24年「ニングル」

才三で出演しており、高い評価を得ている。藤原歌劇団には、21年「ジャンニ・スキッキ」リヌッチョ、22年「イル・カンピエッロ」ゾルゼート、23年「二人のフォスカリ」ヤコポ・フォスカリで出演。キングレコード収録「バルカントの女王」世界的ソプラノ歌手M.デヴィーアとの共演オペラアリア集を自身3枚目のCDとしてリリース。BS12トゥエルビ「童謡コーラス♪名曲大合唱～今は一人で、みんなと歌えるその日まで～」(毎週：日曜夕方4時放送)にて、全国放送BS番組のレギュラー出演で活躍の場を広げている。

日本オペラ協会会員。藤原歌劇団団員。埼玉県出身。

二十絃箏：山田 明美

鼓：高橋 明邦

合唱：日本オペラ協会合唱団

管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団

## チケット情報

**S席：¥16,000 A席：¥13,000 B席：¥10,000 C席：¥7,000 D席：¥5,000 E席：¥3,000**

◆青春割引：B席～E席 2,000円（25歳以下／枚数限定／座席指定不可）

◆ヤング・フレッシュマンチケット：S席・A席を半額（25歳以下／枚数限定）

◆障がい者割引：S席～C席を20%割引（要お問合せ／枚数限定）

※特別割引につきましては、日本オペラ振興会チケットセンターのみで取り扱い。詳細はお問い合わせください。

※未就学のお子様のお入場はご遠慮ください。

### ●お問い合わせ・予約

日本オペラ振興会チケットセンター 03-6721-0874（平日 10:00～18:00） <https://www.jof.or.jp>

### ●チケット販売所

- ・東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650
- ・チケットぴあ <https://t.pia.jp/>（Pコード：267-122）
- ・ローソンチケット <https://l-tike.com/>（Lコード：34242）
- ・イープラス <https://eplus.jp/>
- ・teket <https://teket.jp/> ※電子チケット

## 日本オペラ振興会公式 SNS

X(twitter) [https://twitter.com/JOF\\_opera](https://twitter.com/JOF_opera)

facebook <https://www.facebook.com/japanoperafoundation>

Instagram <https://www.instagram.com/thejapanoperafoundation/>

## 日本オペラ協会とは…

日本オペラ協会は 1958 年(昭和 33 年)に教育オペラ研究会として発足し、70 年に日本オペラ協会と改称して 81 年の藤原歌劇団との統合にいたしました。以来、日本の伝統文化に根ざしたオペラの創造と普及のための活動を一段と充実させ、日本のオペラ界発展の一翼を担っています。84 年第 39 回文化庁芸術祭主催公演「祝い歌が流れる夜に」では制作に対して第 13 回ジローオペラ賞特別賞を受賞。88 年には、ポーランド“ワルシャワの秋”音楽祭に「袈裟と盛遠」で文化庁派遣として参加し成功を収めました。



65 年に開始した“日本オペラシリーズ”は、長年にわたる公演活動の中で多様な成果をあげ、2020 年には 80 回目を迎えました。今では團伊玖磨「夕鶴」、三木稔作曲「春琴抄」、水野修孝「天守物語」などは日本オペラのレパートリーとして定着し、日本初演となった三木稔「あだ」、原嘉壽子「祝い歌が流れる夜に」「よさこい節」、池辺晋一郎「高野聖」、再演の石井欽「袈裟と盛遠」、山田耕柝「黒船」なども高い評価を得るなど日本オペラの公演を精力的に行うと同時に、「日本歌曲連続演奏会」「歌まつり」等の演奏会も積極的に行い、日本人作曲家作品の普及・発展を目指した活動を続けています。初代総監督の大賀寛は日本語唱法の確立にも力を注ぎ、「美しい日本語を歌う」ための研究・指導の第一人者として後進の指導に精力を注ぎました。



2017 年(平成 29 年度)には、メゾ・ソプラノの郡愛子が総監督に就任し、意欲的な作品を取り上げています。同年 10 月、伊藤康英作曲「ミスター・シンデレラ」を室内オペラシリーズとして上演し、現代を舞台にしたファンタジーでハートフルな作品を松本重孝の新演出により日本オペラの可能性を広げる作品として好評を得ました。

平成 30 年度には、なかにし礼による台本、三木稔作曲のグランドオペラ「静と義経」を上演し、満員のお客様にご来場いただきました。令和元年には美内すずえ原作マンガ『ガラスの仮面』の作中劇「紅天女」をオペラ化し、オペラファンのみならず幅広い年代の客層で、全 5 回公演を大成功で終幕しました。

令和 2 年度に上演した「キジムナー時を翔ける」は、

第 29 回三菱 UFJ 信託音楽賞を受賞。令和 4 年度には三木稔作曲「源氏物語」を日本語版オペラ世界初演として上演。令和 6 年度には、倉本聰原作の「ニングル」を初のオペラ化として新作初演し、オペラファンのみならず倉本ファンにも大好評を得るなど、日本オペラの可能性を最大限に広げ、その魅力を多くのお客様に伝えられるような公演創りを目指し活動を続けております。

### 日本オペラ協会総監督：郡 愛子 Aiko KORI



1975 年に日本オペラ協会より、78 年に藤原歌劇団より、それぞれデビュー。

85 年には、両団体の公演における顕著な功績が認められ、日本で唯一のオペラ賞であったジロー・オペラ賞を受賞。また翌 86 年には、日本オペラ協会公演「舌を噛み切った女」の主役出演で同賞を受賞し、2 年連続受賞の栄誉を授かる。さらに 87 年には、自身初のリサイタル「オルフェオの世界」で昭和 62 年度文化庁芸術祭賞を受賞。これまで両所属団体の公演はもとより、小澤征爾指揮「ヘネシー・オペラ・シリーズ」、新国立劇場主催公演、ほか数多くのオペラに出演を重ね、コンサートにおいて

でも主要オーケストラの定期演奏会、特別演奏会等へのソリスト出演は枚挙にいとまがない。

2017 年度より日本オペラ協会総監督を務める。以来、2018 年度《日本オペラ協会創立 60 周年記念公演～「静と義経」(ニュープロダクション)》の東京初演を皮切りに、《スーパーオペラ～「歌劇 紅天女」》の新作初演、《三木稔作曲～「源氏物語」》の日本語版オペラ全幕世界初演、《倉本聰原作～オペラ「ニングル」》の新作初演など、次代を見据え時を得た作品を次々と制作・上演し、これらを成功に導いて来ている。2020 年度《キジムナー時を翔ける (ニュープロダクション)》では「三菱 UFJ 信託音楽賞」を受賞。

公益財団法人日本オペラ振興会 常務理事／日本オペラ協会 総監督

公益社団法人日本演奏連盟 理事